

分担研究報告書

人材育成

研究分担者 要 伸也 杏林大学 客員教授

和田 健彦 虎の門病院 腎センター内科 部長

研究要旨

腎臓病療養指導士の育成と地域差是正を通じて、CKD 診療連携体制の充実を目指して研究活動を行った。具体的には、腎臓病療養指導士の第 9 回認定試験(299 名が新規資格取得)、資格更新(156 名が資格更新)を行い、地域差是正のための周知活動とともに、地域ごとに療養士の会の設立準備を進めた。また、厚労科学研究費要班とも連携し、チーム医療の診療報酬化、多職種介入試験の追加解析を実施し、多職種による指導教育の手引きと標準教育プログラムの作成を行った。

A. 研究目的

腎臓病療養指導士の取得を促進し、CKD 診療連携体制への参画を推進する。特に専門医不在のエリアにおける腎臓病療養指導士の充足を目指す。

B. 研究方法

- 1) 人材育成（腎臓病療養指導士の継続的な育成）：
第 9 回腎臓病療養指導士資格認定に向け、認定のための講習会の実施、研修記録の評価、試験応募および試験の実施と認定などを順次進める。また、本年度の資格更新対象者の資格更新を進める。
- 2) 腎臓病療養指導士の地域差是正：各都道府県腎臓病療養指導士の協議会（連携の会）を設立するための準備を行い、その支援策について検討する。
- 3) 診療報酬の普及と評価：当班の成果を中心とする CKD チーム医療に対するエビデンスが評価され、2025 年 6 月より新たな診療報酬「慢性腎臓病透析予防指導管理料」が算定開始となった。今後は、本算定を全国に普及し、評価を行ってゆく。
- 4) 多職種連携の推進とエビデンス構築と標準的な教育プログラムの作成：厚生労働科学研究腎疾患政

策研究「慢性腎臓病（CKD）患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究（代表要 伸也）」（要班第 2 期）において、前班のエビデンスに関して追加解析・追加調査を行い、その結果に基づいて CKD チーム医療に関する標準教育プログラムを作成する。

（倫理面への配慮）

腎臓病療養指導士名を公開するにあたり、個人情報管理に十分な配慮を行った。

C. 研究結果

1) 腎臓病療養指導士の継続的な育成：認定のための講習会を本年度よりオンディマンドのみで行い 469 名の参加があった。認定試験には 304 名の応募があり、2026 年 1 月 25 日に認定試験を実施、受験者 301 名中 387 名が合格となった。今年度の資格更新者は 156 名であった。2026 年 4 月 1 日現在の資格保有者は 2,859 名（前年比 224 名増）となった。

2) 腎臓病療養指導士の地域差是正：地域の実情に見合った支援が必要なことから、各都道府県の連携協議会の設立を進める必要がある。すでに 12 都府

県で設立され、その他の複数の県で準備中であることが判明、これを推進するための支援策について検討を行った。今後は各都道府県への設立を推進し、J-CKDI ブロックとも連携を取りつつ、地域毎の活動を強化し、療養士の育成や支援を一層進める。

3) 診療報酬の普及と評価：当班の成果を中心とする CKD チーム医療に対するエビデンスが評価され、2025 年 6 月より新たな診療報酬「慢性腎臓病透析予防指導管理料」が算定開始となった。今後は、本算定を全国に普及し、評価を行ってゆく。

4) 多職種連携の推進とエビデンス構築：多職種連携の多施設共同研究（全国の 24 施設、3015 名が参加）により、多職種介入が CKD ステージ G3～G5 において腎機能悪化を抑制することを報告した (Abe M, Kaname S, Clin Exp Nephrol, 2023, Abe M, Kaname S, Front Endocrinol 2023, Abe M, Kaname S, Kidney Res Clin Pract 2025)。さらに追加解析により、ステージ G3bA1 を含むオレンジゾーンの CKD 患者にも多職種介入が有効であること、介入前の腎機能低下が大きい群で効果が見られること、介入前の蛋白尿の程度によらず効果が見られることを明らかにした。教育プログラム作成WGを組織し、多職種による指導教育の手引きと標準教育プログラムを作成した。今後はこの手引きの普及と活用を推進する方針である。

D. 考察

腎臓病療養指導士の増加により、CKD 療養指導の知識・技能を有し、チーム医療を支えるメディカルスタッフの育成が進みつつある。しかし、いまだその人員数は不足しており、活躍の場も十分ではない。今後は、地域偏在も考慮したさらなる育成を進めるとともに、腎臓専門医と連動した地域活動、糖尿病療養指導士等の他の療養士との連携を推進していく必要がある。診療報酬が認められたことにより、さらなるチーム医療の推進が期待され、今後は、人材育成と多職種連携の推進、効果的な教育プログラムの開発により、より質の高い多職種チーム指導が普及することが期待される。

E. 結論

腎臓病療養指導士を中心とするCKD診療メディカルスタッフの育成とその効果検証、および効果的な教育プログラム作成により、質の高い多職種連携・チーム医療が全国に普及し、腎臓病診療の水準向上に寄与することが望まれる。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) ○Abe M, Hatta T, Imamura Y, Sakurada T, **Kaname S**. Examine the optimal multidisciplinary care teams for patients with chronic kidney disease from a nationwide cohort study. *Kidney Res Clin Pract*. 2025 Mar;44(2):249-264.
- 2) Weiner M, Sugiyama H, **Kaname S**, Skrunes R, Prenner A, Crnogorac M, Geddes C, Türkmen K, Galesic K, Rosenkranz AR, Suzuki Y, Fujimoto S, Segelmark M. Aetiology of acute/subacute nephritic syndrome: results from kidney biopsy registries in Japan and Europe. *BMC Nephrol* 2025;26(1):625.
- 3) **Kaname S**, Ong ML, Mathias J, Gattaf F, Law L, Wang Y. Outcomes in patients with thrombotic microangiopathy associated with a trigger following plasma exchange: A systematic literature review. *Transfus Apher Sci*. 2025 Feb;64(1):104048.
- 4) Geetha D, Neumann T, Karras A, Cid MC, Merkel PA, Bray S, Bozeman AM, Jayne DRW; Members of the ADVOCATE Study Group. Efficacy and safety of a vacopan for treatment of patients with ANCA-associated vasculitis receiving cyclophosphamide. *RMD Open*. 2025 Oct 5;11(4):e005743.
- 5) Nagasaka K, Amano K, Nagafuchi H, Sada KE, Komagata Y, Yamamura M, Kato M, Endo T, Nakaya I, Takeuchi T, Murakawa Y, Sugihara T, Saito M, Hayashi T, Furuta S, Karasawa K, Banno S, Endo S, Majima M, Dobashi H, **Kaname S**, Tamura N, Arimura Y, Harigai M. Nation-wide cohort study of Japanese patients with ANCA-associated vasculitis using rituximab: effectiveness and safety after two years. *Mod Rheumatol*. 2025 Jun 9;roaf052. doi: 10.1093/mr/roaf052. On line ahead of print.
- 6) Ohmura K, Shimizu H, Tanaka Y, Hiro-mura K, Hayashi H, Kamada K, Minowa K, Kawahito Y, Iwashita A, **Kaname S**, Yasuda S, Hiramoto K, Maruyama S, Yajima N, Iwata Y, Matsumoto I, Gono T, Sato H, Kubo S, Nakayamada S, Ikeuchi H, Yuzawa Y, Kono M, Tamura N, Seno T, Kida T, Sakashita A, Onishi A, Morinobu A, Kawakami T, Hosoya T, Ya

maguchi T, Kaneko Y, Hanaoka H, Kato S, Maeda K, Nakagawa S, Kondo Y, Kuwana M, Ishii T, Sumitomo S, Miyakoshi C, Atsumi T. Impact of glucocorticoid tapering speed on renal outcomes in proliferative lupus nephritis: a multicentre retrospective study. Rheumatology (Oxford). 2025 Sep 1;64(9):5014-5022.

- 7) Geetha D, Pagnoux C, Sattui SE, Merkle PA, Weiner M, Draibe J, Faguer S, Bray S, Gurlin RE, Balcells-Oliver M, Bruchfeld A, Jayne DR; ADVOCATE Study Group. Efficacy and safety of avacopan in patients aged 65 years and older with ANCA-associated vasculitis: a post hoc analysis of data from the ADVOCATE trial. Rheumatology (Oxford). 2025 Jun 1;64(6):3863-3871.
- 8) 要 伸也: SLEの腎障害とSGLT2阻害薬. リウマチ科 74(5);480-487, 2025.
- 9) 要 伸也: 第4回臨床医学における血液ガスと酸塩基平衡分析の100年. 連載 腎臓学100年史. 腎と透析 74(5):1-8, 2025.
- 10) 和田健彦. CKD発症予防・重症化予防啓発における多職種アプローチ: 内科医の視点から. 東京都薬剤師会雑誌 2025; 74(4): 231-233

2. 学会発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

- 1) **Kaname S**: Importance of multidisciplinary team care in dietary education for CKD patients. International Workshop on Dietary Therapy for CKD 2025. Naha, March 29, 2025.
- 2) 要 伸也: CKD診療における多職種連携と人材育成の現状と課題～診療報酬の話題も含めて～. 第7回愛知県腎臓病療養指導士チーム医療セミナー. 名古屋, 2025年8月30日.
- 3) 要 伸也: CKD診療における多職種連携と人材育成の現状と課題～診療報酬の話題も含めて～. 腎臓病療養指導士のためのCKD連携セミナーin 大阪. オンライン, 2025年9月4日.
- 4) 要 伸也: 腎臓病療養指導士の現状と今後の課題. シンポジウム4: 糖尿病、腎臓病と心不全療養指導士の歩みと連携・協力への展望. 第18回CKDチーム医療研究会. 東京, 2025年 9月 14日.
- 5) 要 伸也: 今後の腎臓病療養指導士に期待すること. 第2回神奈川県腎臓病療養指導士の会. 川崎, 2025年11月8日.
- 6) 要 伸也: CKD診療における多職種連携の重要性～腎性貧血に対するHIF-PH阻害薬の使用方を含めて～. 第12回Pharmacist Conference. 2026年2月12日.
- 7) 土井悦子, 和田健彦. 東京都港区における多職種・多施設チームのCKD重症化予防の取り組み. 第18回日本CKDチーム医療研究会. 東京. 2025/9/13
- 8) 水谷 真希子, 小中原 康子, 吉田 和代, 干川 三稀, 松尾 七重, 青木 和美, 後関 素子, 四方 公亮, 土井 悦子, 和田健彦. 腎臓病療養指導士ってどういう活動をしているのか知っ

てトライしてみませんか 腎臓病療養指導士としての活動 多職種連携と地域に根ざした管理栄養士の役割. 第19回日本腎臓病薬物療法学会. シンポジウム. 東京 2025/11/2

- 9) 和田健彦. J-OSLER-JINを用いた専攻医指導. 第68回日本腎臓学会学術総会. 指導医講習会. 横浜 2025/6/22

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし